

島おこし協力隊ミッション ミニコラム 5

「イノシシ対策、ジビエ振興に向かって！」

鳥獣対策ジビエ振興
藤原 隆司

島おこし協力隊として4月より着任しました藤原です。このコラムが掲載されるころは真夏の暑い日が続いている今日この頃ですが、実は梅雨の明けきらぬジメジメした雨の中、筆を執らせていただいております。

上島町に移住して早3ヶ月、いやいやまだ3ヶ月……。島のきれいな景色、美味しい空気、豊かな自然、やさしい島の方々に囲まれて、「島に来てよかったねえ」と妻と話しながらワクワクした新しい生活を送っています。

本題に戻しますが私の第二の人生、この地に参上したのはお題目のとおり。新聞記事やニュースなどでよく耳にする有害鳥獣による被害の問題。上島町においても農作物被害、集落への出没と渦中の真只中。8年前から駆除対策に立ち上がった「上島町鳥獣被害対策実施隊」による日々の防衛活動とジビエ振興の助太刀という重大任務を拝命することとなりました。



『ジビエ』ってなに？

ご存じの方も多いかと思いますが改めて簡単にではありますが説明しましょう。

そもそもジビエ (Gibier) とは、食肉として利用できる野生鳥獣を意味するフランス語です。

ヨーロッパにおいては貴族によって受け継がれてきた食文化で、今でも高級食材として流通されています。(上島町で意

味するジビエ「イノシシ」です。

実はイノシシ肉、普段食べているウシやブタ肉と比較すると高タンパク・低脂肪で鉄分やビタミン類も豊富に含まれているのです。

栄養価がとて高くヘルシー、隠れた「天然プロテイン」なのです！

そして上島町のイノシシ肉は他とは一味違う、「何よりジューシーで美味しい」と他県のハンターの方からも高い評価

を受けています。

こだわりの極上絶品ジビエ「上島産ジビエ」として、名を轟かせるため東西南北、汗を流して走り続けなければ。

みんなで上島町の新しいランド作りをしませんか？夢を語ればキリがない。

活動は始まったばかり。私の暑々しい活動内容はまた次の講釈



▶ 師匠の上島レジデント・イノシシ調査のコマ



▲ 施設長の森下さんとツーショット



▲ 松野町獣肉処理施設（森の息吹）視察 外観はとてもオシャレです。



▲ 施設内でお肉・加工品・ペットフードも購入できます。



▲ 松野町獣肉処理施設 処理加工室はピカピカ！！



ゆめしま未来塾



上島町には、サイクリングをするために多くの人がやって来ます。信号がないことや、起伏に富んださまざまな道を走れることは、サイクリング好きな人には魅力的に映るのでしょうか。島や海の景色を眺めな

島を移動する楽しさ

がら、季節ごとの空気を肌で感じられることも非常に楽しみがいのあることだと思います。私は移動手段としてクロスバイクを使うことが多く、1年を通して、乗り続けられることに新鮮味を感じています。

島にいる人の様子を見てみると、交通手段としては、車、船、バス、バイク、自転車といったものを利用しているのがわかります。弓削高校の生徒たちも、車で迎えがあるため遅くまで勉強する生徒や、船の時間に合わせて、19時過ぎには帰っ

ていく生徒など、交通手段によって生活習慣も変わっているようです。時間にゆとりをもって、島での移動時間も楽しめるといいですね。

ゆめしま未来塾
高橋 哲弥

弓削高校魅力化コーディネーター

7月号でインタビュー記事を掲載した弓削高校の「地域みらい留学生」。留学生の生活になくてはならない大切な存在が「島親さん」です。親元を離れて暮らす留学生に、夕食の提供や車での送迎、時には地域行事のお誘いまで、幅広くサポートいただいています。先生でも親でもない、島での第三者の大人とのつながりが、留学生にとって弓削高校の魅力のひとつになっており、心

留学生の生活を支える「島親さん」

の支えにもなっています。



留学生がより深く地域とつながれるよう、新たに島親さんを募集し

ています。詳しくは、『広報かみじま』弓削高等学校ページをご覧ください。

高校魅力化コーディネーター
来住 美里

魚島離島留学

みなさん、こんにちは。魚島離島留学の大塚です。

ゴールデンウィークに魚島に着任し、あっという間に月日が流れました。夏休みの間は、魚島さざなみ留学生は帰省をしていましたが、よそ様の子どもの預かるという難しい仕事で、日々子どもたちのことを考え、楽しく過ごせるように頑張っています。

今回は、主に休日の過ごし方についてご紹介します。留学生の希望や魚島だけでなく、上島町の子どもたちとの交流を目的とした上島町のつ

1学期を終えて

ながるプロジェクトのプログラムとして、魚島で釣り大会を開催しました。この日に釣れた魚は、キス、ハゲ、サバ等で、お昼ご飯にはアジフライと瀬戸貝(セトガイ)の味噌汁、鰹の骨せんべいを出して「おもてなし」をしました。留学生が島外の子どもたちと交流している姿を見て、とても微笑ましく感じました。

留学生はもう少し魚島での夏休みを満喫したい様子でしたが、一旦帰省をして充電して来るといって、山ほどの宿題を持って帰りました。

私も、夏休み明けには留学生と

120%楽しめるように準備していきたいと思います。

魚島離島留学
大塚 恵